Town Scape
タウンスケープ

白岡市

みんなでつくる
自然と利便性の調和したまち　しらおか

白岡市長　藤井栄一郎氏

市長のメッセージ

“「白岡美人」の愛称で親しまれている梨が特産のまち”白岡市は、東京都心まで40㎞圏内、埼玉県の東部に位置し、緑に恵まれた美しいまちです。平成24年に単独で市制施行し、10年が経過したところです。

第6次白岡市総合振興計画に掲げている、まちの将来像「みんなでつくる　自然と利便性の調和したまち　しらおか」の実現に向け、市政運営に鋭意取り組んでいます。

今後も、当市のポテンシャルを最大限に活用し、誰もが「白岡市に住みたい、住み続けたい、住んでよかった」と思える「ふるさと白岡」を目指してまいります。

はじめに

白岡市は、埼玉県の東部、都心から40㎞圏に位置し、北を久喜市、東を宮代町、南東をさいたま市と春日部市、南西を蓮田市と接している。市域は東西9.8㎞、南北6.0㎞で、面積は24.92㎢、人口はおよそ5万3千人である。

市内には、JR宇都宮線・白岡駅と新白岡駅の2つの駅があり、都心まで約40分で結ばれている。国道122号に加えて、さいたま栗橋線など県道8路線が市内を走っており、東北自動車道・蓮田スマートICや久喜IC、圏央道・白岡菖蒲ICを身近に利用できることから、交通の利便性は非常に高い。

江戸時代中期の政治家・学者で、後に「正徳の治」と呼ばれる政治改革を行った新井白石は、この地の野牛村の領主であった。市内には白石が掘らせた白石様堀（はくせきさまぼり）が残り、開削当時とは姿が変わったものの、今も排水路としての役割を果たしている。

白岡宮代線の橋桁架設工事

白岡駅周辺地域におけるまちづくり

市は、白岡駅周辺地域において、駅から東西に延びる都市計画道路の整備を進めるとともに、市の顔となる魅力的な都市景観の形成に取り組んでいる。

これまで白岡駅西口は、店舗等が立ち並び買物客で賑わうなど、市の中心的な機能を担ってきたが、少子高齢化の進展や社会的ニーズの変化などにより、近年では空洞化が目立ちはじめている。

そこで市では、白岡駅西口から県道さいたま栗橋線を結ぶ都市計画道路白岡駅西口線の整備に併せ、白岡駅西口駅前広場の整備を進めている。

新しい駅前広場の整備は、広場内の道路と歩道を分離し利用者の安全性を確保するとともに、バスやタクシーの乗降場や、雨を避けるためのシェルター（屋根）、公衆トイレなどを設置し、駅利用者の利便性向上を図る計画となっている。

一方、白岡駅東口では、白岡駅東部中央土地区画整理事業が進められており、その一環として駅東口から延びる都市計画道路白岡駅東口線の整備に努めている。2023年10月3日には、東北自動車道を一時通行止めにし、東北自動車道をまたぐ都市計画道路白岡宮代線の橋桁架設工事が行われた。将来、白岡駅東口線と白岡宮代線がつながれば、白岡駅周辺地域と、白岡市役所や保健福祉総合センター「はぴすしらおか」など、また、県道春日部菖蒲線までが最短距離で結ばれ、市民の利便性が飛躍的に向上するものと見込まれている。

白岡市概要

人口(2023年12月1日現在)	52,653人
世帯数(同上)	22,985世帯
平均年齢(2023年1月1日現在)	47.6歳
面積	24.92㎢
製造業事業所数(経済構造実態調査)	66所
製造品出荷額等(同上)	611.6億円
卸・小売業事業所数(経済センサス)	237店
商品販売額(同上)	645.2億円
公共下水道普及率	70.0%
舗装率	67.2%

資料:「令和4年埼玉県統計年鑑」ほか

主な交通機関

●JR宇都宮線　白岡駅、新白岡駅
●東北自動車道　蓮田スマートIC、久喜ICから市役所までそれぞれ約6km
圏央道　白岡菖蒲ICから市役所まで約8km

白岡美人プロジェクト推進計画

白岡における梨の歴史は古く、明治時代には既に栽培が始められており、最盛期には約300戸の農家が梨を生産していた。近年は生産者の高齢化や後継者不足などもあって生産量が減少しているが、今なお白岡は県内有数の梨の産地である。

「白岡美人」という名称は、2001年に白岡産の特別栽培農産物の愛称とシンボルマークを市民から募集し、白岡産の梨の愛称として決定された。特定の品種や等級を指すものではなく、白岡産の梨の総称となっている。

高い技術力を背景に、白岡産の梨は甘くておいしいと消費者から高い評価を受けているものの、全国的にみれば必ずしもその品質にふさわしい知名度を獲得できているとはいえない。こうした状況を受けて、市は2021年3月に「白岡美人プロジェクト推進計画」を立ち上げた。

白岡美人には、夏に人気の高い幸水や豊水から冬に食べることが可能な新雪まで12もの品種が揃い、季節に応じて多彩な味を楽しめる強みがある。こうした魅力をロゴマークやマスコットキャラクターを活用してPRするとともに、生産を支援する取り組みを実施している。

市は、白岡美人の栽培技術が後継者にしっかりと継承されるとともに、市内外の皆さんに愛される特産品となるよう、白岡美人プロジェクト推進計画に全力で取り組んでいる。

こども家庭センター

2023年4月、市は子育て支援体制の強化を図るため、組織の改編を行った。母子保健担当を健康増進課から子育て支援課に移管するとともに、子育て支援課を市の保健福祉総合センター「はぴすしらおか」に移転し、子育てに関する窓口を集約化した。また、新たに子育て世代包括支援センターと子ども家庭総合支援拠点の機能を合わせた「こども家庭センター」を設置した。

市は、安心して子どもを産み、子育てが楽しいと感じ、未来を担う子どもが心豊かに成長できる環境を、地域社会全体でつくりあげていくことを目指しており、こども家庭センターは、「はじめての妊娠・出産で不安」「赤ちゃんのお世話がうまくできない」「身近に助けてくれる人がいない」といった妊娠・出産・育児に関する相談、子育てについての悩みごとなどに、切れ目ない支援を行っている。　（井上博夫）

甘くておいしい「白岡美人」